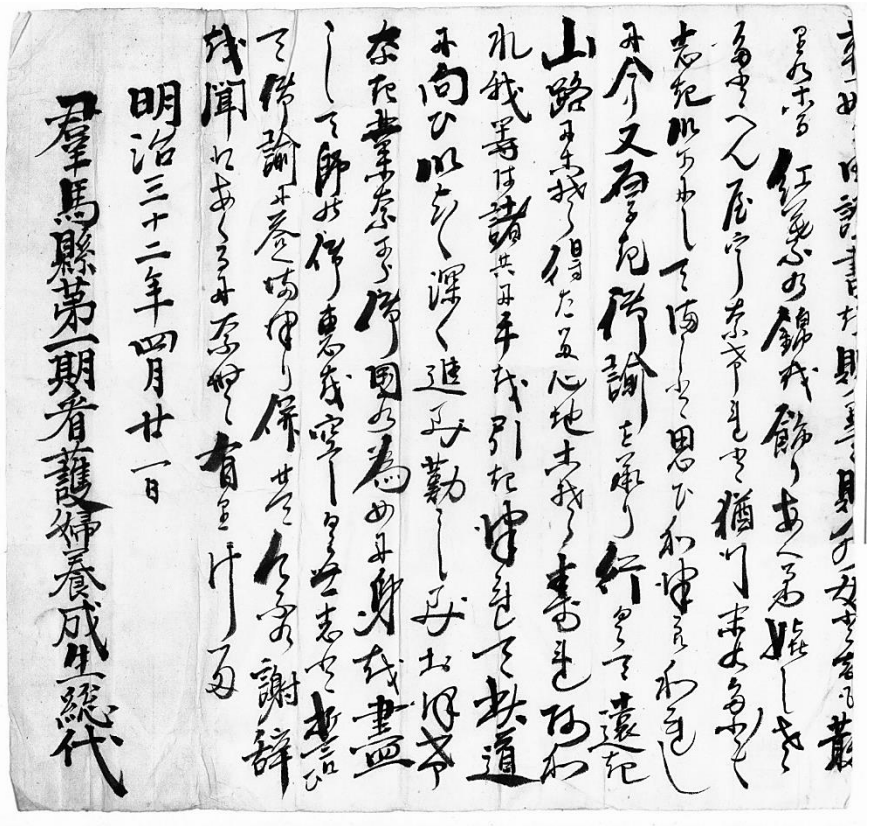

りのこる紅葉の錦を飾りあへるわ嬉しさ
たとへんやうなけれど猶行末のたどたど
しき、いかにして、ましと思ひわつられし
に、今又厚き御諭を承り、行くて遠き
山路にこそ得たる心地こそすれ、あわ
れ我等は、諸共に手を引きつれて此道
に向ひ、いよいよ深く進み勤しみおほけ
なき業ながら御国の為めに身を盡
して師の御恵を空しくせじと誓ひ
て、御諭に答へまつり、併せて今日の謝辞
を聞きあぐるになむ有りける

明治三十二年四月二十一日
群馬県第一期看護婦養成生総代

5 卒業式謝辞 赤十字第1期看護婦養成生

明治32年（1899）4月21日

日本赤十字社群馬県支部看護婦養成所における卒業式謝辞の案文と推定される史料です。

史料は前欠で看護婦養成生総代の名前もなく不明な部分が多いのですが、「日本赤十字社群馬県支部百年史」には、明治30年5月14日に支部看護婦養成所（2年修業）開校とあり、この時点で入学した養成生と思われます。

また、同百年史には同日に入学し、明治31年3月31日の前期卒業式で総代を務めた石原はる氏の答辞が掲載されています。

なお、群馬県支部では、日清戦争が始まった明治27年に「日本赤十字社群馬県支部看護婦養成所第一期速成科」を開設しており、この史料は「速成科」ではない正規の看護婦養成所の第一期養成生のもののようです。（この後の看護婦養成は東京本社に委託されました。）

摩庭進家文書「〔謝辞〕（卒業式にて）」（P0105 275）